

心理学専攻

認知と発達の領域を中心に、幅広い専門能力を身に付ける

特定の領域に偏らず、心理学のさまざまな領域を学びます。そのため、知覚・睡眠・発達・発達臨床・言語・教育・行動分析・犯罪・社会・記憶・学習・音声学・スポーツといった多様な領域のエキスパートによる集団指導体制をとっています。また、実験・検査・面接、調査や統計など、心理学の研究法に関する技術を修得できるようにカリキュラムを編成しています。心理学の研究法を修得しながら高度なコンピュータ・リテラシー、文章表現力、プレゼンテーション能力が身に付きます。さらに、所定の条件を満たすことにより学校心理士あるいは学校心理士補の受験資格を取得できます。一般入試に加え、社会人入試も実施しています。社会人入試（修士課程）により入学した院生は、所定の手続き後、14条特例※を利用できます。学内のライフスキル教育研究所とも連携し、エビデンスに基づいた研究実践を展開します。※大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例 (<http://www.hosei-shinri.jp/>参照)

本専攻では、臨床心理士試験の受験資格を得ることができません。ご希望の方は人間社会研究科臨床心理学専攻の案内(P.54)をご覧ください。

<p>アドミッション・ポリシー (学生受け入れ方針)</p> <p>修士課程では以下の意欲や知識・スキルを持つ学生を受け入れています。博士課程ではこれらをさらに高い水準で身につけている学生を受け入れています。</p> <p>○心理学研究への強い意欲と心理学の各分野における学部卒業レベルの知識。</p> <p>○修士論文研究の実施と論文執筆のために必要となる英文読解力や批判的読解力、論理的思考力、データ分析力、プレゼンテーション能力、およびITリテラシー。</p>	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)</p> <p>修士課程では以下の方針に基づいて教育課程を編成しています。博士課程では、さらに、専門分野以外の領域を深く学ぶ授業、大学で講義を担当する能力を身につけるための授業、研究成果を海外へ発信するための授業を必修科目として設置しています。</p> <p>○「認知」と「発達」の二領域を中心とした科目配置。</p> <p>○少人数体制で指導する演習科目を必修とし、学期ごとに通年で開講。</p> <p>○年に2回の研究発表会では専任教員全員で集団指導。</p> <p>○グループ討論や発表機会、情報技術を活用する課題の設定。</p>	<p>ディプロマ・ポリシー (学位授与の方針)</p> <p>修士課程では以下の知識や技能を心理学諸学会で求められる水準で習得した学生に対して修士(修士)の学位を、博士課程では学問の発展に寄与できる水準にまで習得した学生に対して博士(心理学)の学位を授与しています。</p> <p>○人の認知や発達について科学的に理解できる。</p> <p>○観察・実験・調査を通して、心の機能を測定し、分析できる。</p> <p>○国内外の先行研究や社会的要請をふまえ、自ら課題を設定できる。</p> <p>○研究・学習目標を達成するために他者と協働でき、成果を的確に他者に伝えられる。</p>
--	--	---

専任教員と主な担当科目 (2017年度) ※年度により授業を持たない場合があります。

<p>越智 啓太 教授</p> <p>専攻：犯罪心理学、社会心理学 研究テーマ：犯罪心理学、特に犯罪捜査における心理学の応用についての研究 担当科目：心理学特殊研究Ⅰ/Ⅱ</p>	<p>島宗 理 教授</p> <p>専攻：行動分析学、産業組織心理学 研究テーマ：パフォーマンス・マネジメント、インストラクショナルデザイン、組織行動マネジメントや消費者行動に関する研究 担当科目：発達行動特論、学校コンサルテーション特論、行動分析学特殊講義</p>	<p>高橋 敏治 教授</p> <p>専攻：生理心理学、睡眠科学、精神保健学 研究テーマ：時差症候群とシフト勤務に関する精神作業能力やP300の変化、サーカディアンリズム睡眠障害 担当科目：精神保健特論</p>
<p>田嶋 圭一 教授</p> <p>専攻：音声学、言語学、言語心理学、認知科学 研究テーマ：音声言語の知覚・産出・学習に関する実証的研究 担当科目：音声言語科学演習、音声言語科学特論、心理学英語論文作成指導</p>	<p>福田 由紀 教授</p> <p>専攻：言語心理学、教育心理学 研究テーマ：浅い処理から見た文章理解モデル、コミュニケーションにおける言語活動の役割 担当科目：言語心理特論、言語心理演習</p>	<p>藤田 哲也 教授</p> <p>専攻：認知心理学、教育心理学 研究テーマ：人間の記憶を中心とした認知メカニズムに関する基礎研究と、学習場面における動機づけと学習方略との関連を中心とした教育への応用研究 担当科目：学習心理特論、学習指導特論、認知学習過程演習、大学教員心理学基礎講座</p>
<p>吉村 浩一 教授</p> <p>専攻：知覚・認知心理学、心理学研究法 研究テーマ：逆さめがね着用などによる変換された視覚世界への順応過程の研究、心理学研究法、アニメーションにおける動きの研究 担当科目：知覚運動論演習、心理研究法特論、知覚認知心理学特殊講義</p>	<p>渡辺 弥生 教授</p> <p>専攻：発達心理学、発達臨床心理学、学校心理学 研究テーマ：社会性や道徳性の発達メカニズムの解明・いじめなどの対人関係における問題の予防と心理教育プログラムの開発・展開 担当科目：発達心理特論、学校カウンセリング演習</p>	<p>荒井 弘和 准教授</p> <p>専攻：スポーツ心理学 研究テーマ：スポーツ選手の競技力向上の支援(メンタルトレーニング・チームビルディング)、ソーシャルマーケティングによる生涯スポーツの普及 担当科目：スポーツ心理特論</p>

主要な研究設備

- NIRS(近赤外分光法 脳血流量測定装置)：全脳型1台、前頭型2台。
- 脳波計：据置型1台、携帯型2台。
- ポリグラフ：脳波、筋電図、呼吸運動、心電図、指尖脈波、耳栓型温度、皮膚活動電位などが測定可能。
- その他、サーモグラフィー、アイカメラ、呼吸代謝測定機器、事象関連電位や周波数、3次元動作や自律神経系の解析ソフト、防音室など。

Graduate School of Humanities
Major in Psychology

募集人員： 修士課程10名／博士後期課程3名
開講形態： 昼間開講
キャンパス： 市ケ谷
主な進路： 教職、公務員(家庭裁判所調査官、各県心理職、各県警科学捜査研究所、法務省)、発達支援、情報通信、リサーチ会社、博士後期課程への進学、大学や研究機関など

研究室紹介

吉村 浩一 教授



錯覚や見間違いも、見ることの法則性が生み出す心の法則

古くて新しい問題を知覚することから始まる人の認知の解明

「認知」とは、身の周りにあるものを知覚することから始まり、それを記憶し、それらを材料に思考・推理していく心の働きです。私たちの心理学専攻では、この「認知」を、もう一つの柱である「発達」とともに、心理学にとって重要で中心的な研究対象として、さまざまな角度から解明することを目指しています。中でも「知覚」は、身の周りの映像や音、香りや振動などの物理的刺激が心に届く入口部分を担当する研究分野で、科学的検討が行いやすい領域です。例えばアニメーションは、静止画を次々に素早く見せているのに滑らかな動きと知覚されます。物理的事実と心理的知覚物の間にあるこのようなズレを科学的にかつ法則的に捉えることを私たちは目指しています。

※本専攻には、このほかに精神生理・知覚・言語・音声・発達・犯罪・行動分析・スポーツなどの分野を扱う、全部で9の研究室があります。

STUDENT'S VOICE



博士後期課程 在学中
太田 碧

数少ない心理学的なアニメやキャラクターの研究成果を 実際のアニメ制作などの現場に還元したい

私の研究

私は、アニメーションキャラクターについての研究をしています。特にキャラクターの顔の魅力や、実際の人間との違いに注目し、認知に差があるのかを実験と統計を用いて明らかにする研究に取り組んでいます。現在、アニメやキャラクターについての心理学的研究は少ないため、研究において得られる結果は、この分野においてとても有益であると考えています。

将来の目標

研究を続けていきたいと考えています。心理学的なアニメやキャラクターの研究はまだ数が少ないので、数を積み重ねて新たな発見をしていきたいです。また、研究の成果を実際の現場に生かす形に変化させていくことが目標です。魅力的なキャラクターの作成や、実写化に際して原作の魅力を損なわないようなシステムの開発を行いたいと考えています。

研究テーマ	アニメーションキャラクターの顔、魅力について
-------	------------------------

設置科目 (2017年度) ※開講科目は年度により異なります。()内は単位数

[修士課程]	発達行動特論(2) 生徒指導特論(2) 言語心理演習(2) 学校コンサルテーション特論(2) 心理教育アセスメント特論(2) 心理教育アセスメント演習(2) スポーツ心理特論(2) 健康心理特論(2) 心理研究法特論(2) 応用心理統計Ⅰ/Ⅱ(各2) 言語分析哲学研究Ⅱ1・2(各2) 古代哲学史研究Ⅱ1・2(各2) 近代倫理学史研究Ⅱ1・2(各2) 実践哲学研究Ⅱ1・2(各2) 科学哲学研究Ⅱ1・2(各2) 超越論哲学研究Ⅱ1・2(各2) 障害児心理特論(2) 人格心理特論(2) 言語心理特論(2) 精神保健特論(2) 学校カウンセリング演習(2)	日本近代史研究Ⅰ/Ⅱ(各2)	
心理学研究法演習Ⅰ/Ⅱ(各1) 学習心理特論(2) 音声言語科学特論(2) 社会心理特論(2) 読書心理特論(2) 教育心理特論(2) 犯罪心理特論(2) 学習指導特論(2) 知覚運動論演習(2) 音声言語科学演習(2) 精神生理特論(2) 認知学習過程演習(2) 臨床心理特論(2) 発達心理特論(2) 発達臨床心理特論(2) 言語心理特論(2) 日本語学研究Ⅰ/Ⅱ(各2) 日本古代史研究Ⅰ/Ⅱ(各2) 言語心理特論(2) 日本古代史料研究(2) 日本中世史研究(2) 日本近世史料学研究Ⅰ/Ⅱ(各2)	[博士後期課程] 心理学特殊研究Ⅰ/Ⅱ 大学教員心理学基礎講座 心理学英語論文作成指導 知覚認知心理学特殊講義 精神生理学特殊講義 発達心理学特殊講義 言語心理学特殊講義 行動分析学特殊講義 犯罪心理学特殊講義		不安喚起の差異からみた入眠期の脳波・自律神経活動による精神生理学的検討 子どもの発達に関する知識が育児ストレスに及ぼす影響 商品名に含まれる音相の違いが購買意欲、商品画像の選択に与える影響 連続殺人事件における犯行形態からの犯人属性の推定に関する研究 人物同定再認における幸福顔優位性の生起因一再認の二過程説による検討一 漢字・ひらがな・カタカナの書き分けと印象の違いについて 一日本語表記に関する実証的研究一 空間的運動情報が時間知覚に与える影響 一S効果における等速運動仮説の検証一 オノマトへの感覚関連性および表記形態が意味理解に与える影響 一感覚情報を測定する評価用語への応用を目指して一 次元の連続性破綻によるアニメ視聴理解への影響の差について